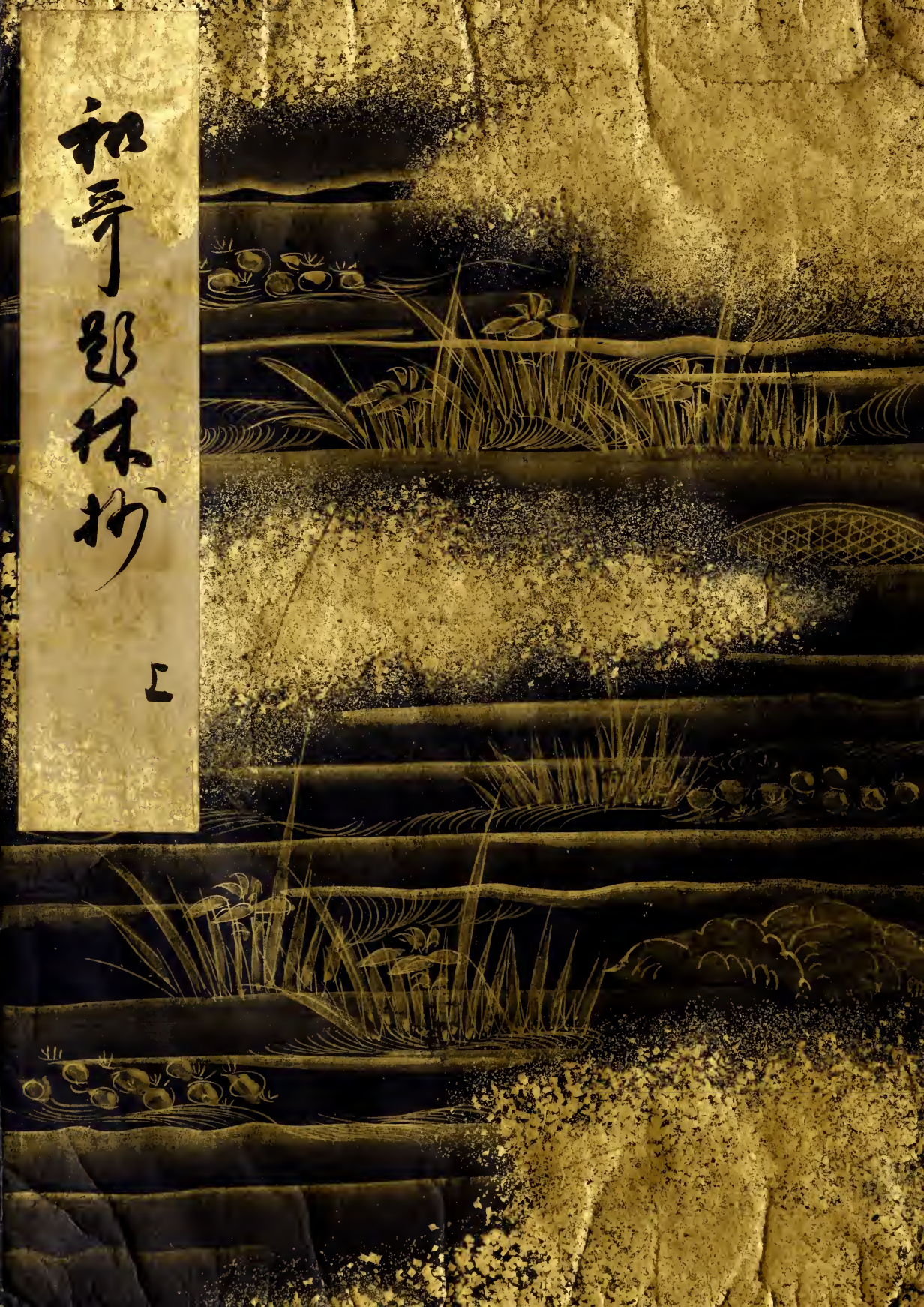
和哥題林抄

上



Vault Collection

L. Tom Perry Special Collections
Harold B. Lee Library
Brigham Young University

PL
728.8115
.W34
1700
vol.1

BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY
3 1197 23534 2554

和歌題林抄上

春

立春

UPB

りやよろ人ゝさゝ殿上人蔵人所にまいりつゝ
まて侍りてありまゐらする様く作りてつらふ
あるなる人もうまてゝくもありもあまた
堂の神とつ神くらなるかしとはれてしき
業とのゝみくちも弟ゝまゐらかしむふらるかり
しきてる行事人たちかりわりまりても殊しまゐ

子日

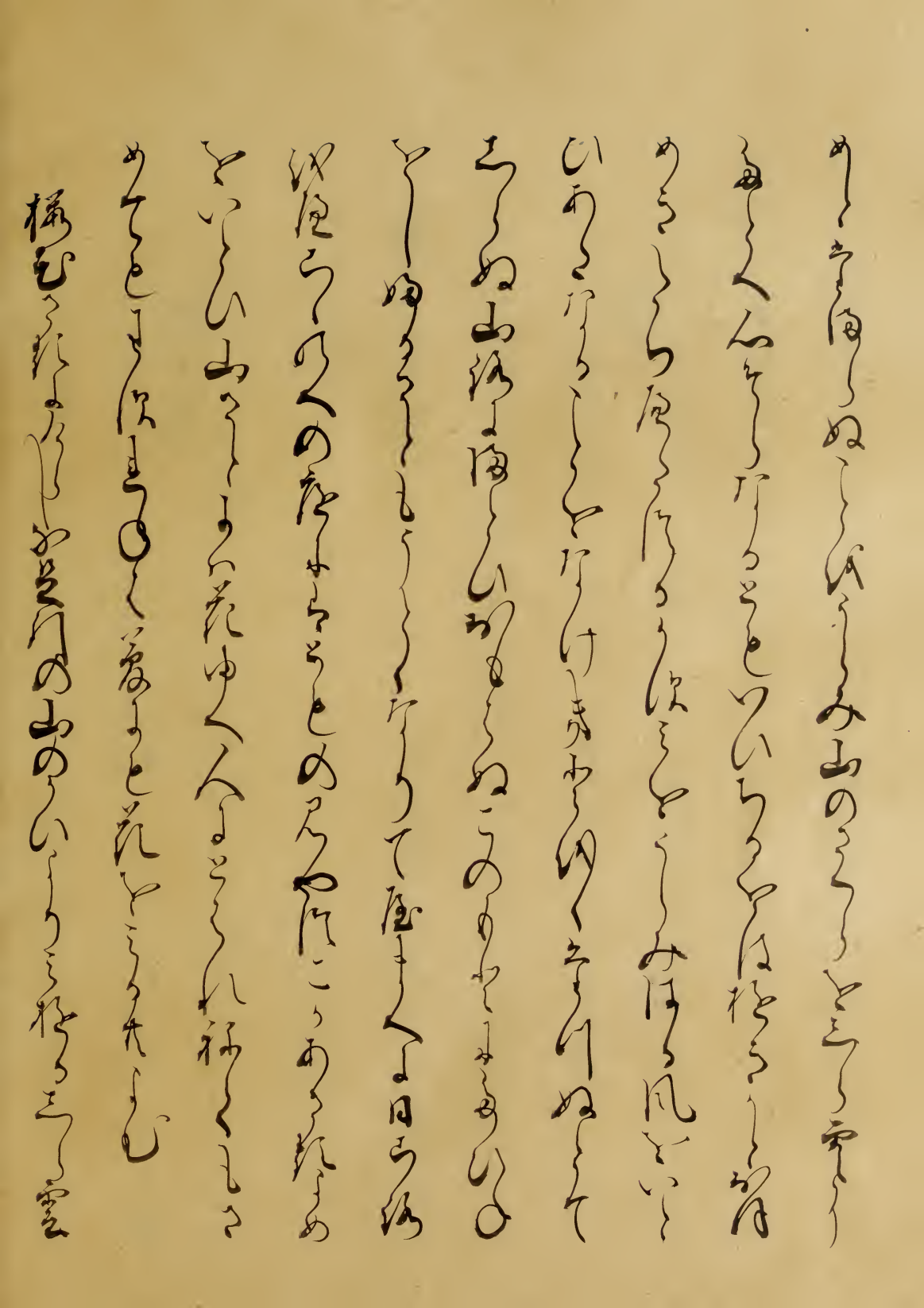
いめこまつ　ちよのまつ　子日の松
かそゝの　いくまの

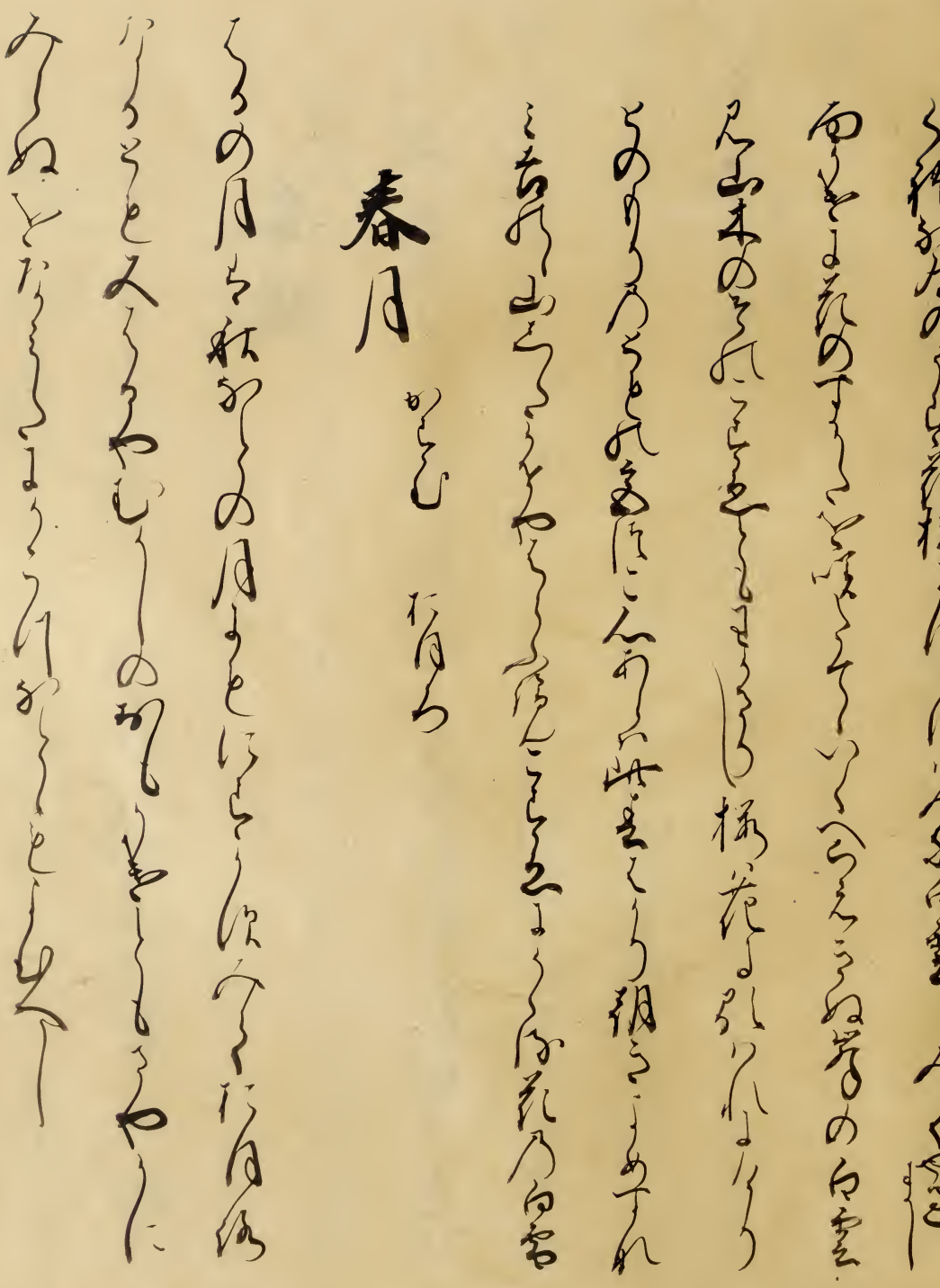
まのこゝろ乃日将人よはでゝしのもやゝこまつ河
いまはた人とも男ともいふかきくなりつゝ様くひ

かくとのみおもひみたれつゝ草葉にあるへきゆかりの涙
なくなく御とのゐものに宿世にゆかりなきこの君なれ

若草

かきのもとのおもかけしけんともわすれ
程なくさためなき人の御ことにはかなくもおほえ
しとみしまゝに源氏の君のかたはらに御心の
女御にかゝりしも又きこえてのち御心
まさなきことといふはかりのあらんとおもひ
われこそひとりのちをもいかなりしとも





さればとこしてしつくるとそへし
とられのをりふしもふぬ山中にすみ侍らはしもしやこそや
世中のうきにはしに入なれはふしもしつくるかな

苗代

なはしろ水　とりわけしつ
苗○まし　小山田　しみ井

おもしろくつちくれのもとはくらへてらす河田に
しら露してそこ○とくおもはれぬはしもへき
されはけふあさくたのなかにすれやうかにとあめ
てかりしはるかとのまりしつまよせためくく
しかくらほりて○とまりしてはつ又秋

花のうくとのなれはくるのゆうりにかけしかとも
あれくる夜はかつまくぬるうしに起しうしみれ
けまくかしうといもかかるみよけじんかくもよむ
かくみとはつまいつくこのかつる
春のうしみまつまにうしまれは好やかつしまうしまる
よなり

三月三日　とくの花

やよひの三日は曲水の宴とゝ申あつまもろつし
よつまとこまつるもやりのうかさうなる有り
ゆりあかしてそのみさうにはしいぬくかみ

さくらちる卯月なかれはまた山ほとゝきすのこゑしほりけんこゝろは
くるゝとて夜ふかくしらぬ夜はほとゝきすあまたなれしも山

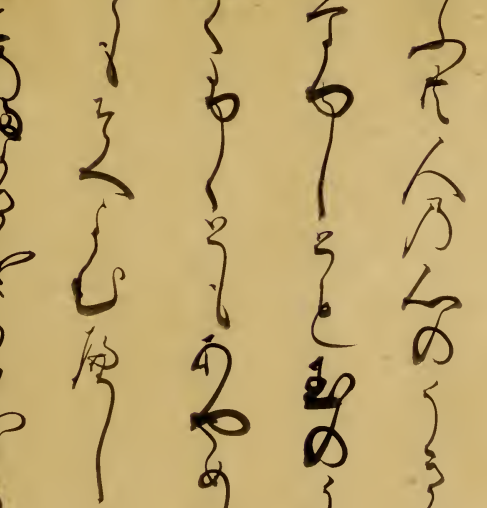
卯花

しの花つもるよ　卯のさかり山
くもりひかりけ　いくよりしらつゝ

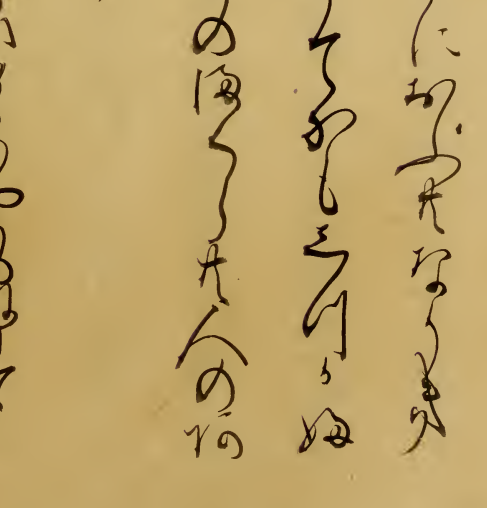
夜ましくらきね覚しもまし人こゝろのこゝろつきてる月もし
たはふるゝあまりしめのこゝしもちけみかしこく山かけの
うきのちやこしやうめのうしたひとれはそみち
まちくれよいかれし山さしも卯の花もさかり
み人のみるうしけしし
卯花のさくぬかるのみかれたけしかれしろき河の里

新樹

菖蒲



薬玉



しられ乃草木の花とところところのけみえてめてこそ
乃つしにけりそての月の日うしくまくいからもかう
くれはいさひのしけれく人しにめりし
くはしもいよの月のゝ海ともし山風し
あやめくさ祢くしと君かこゝろのくまもれにさま
河かく紫の花の色くいはひつまかるか君かおもひに

早苗

よみ人　まうけ人

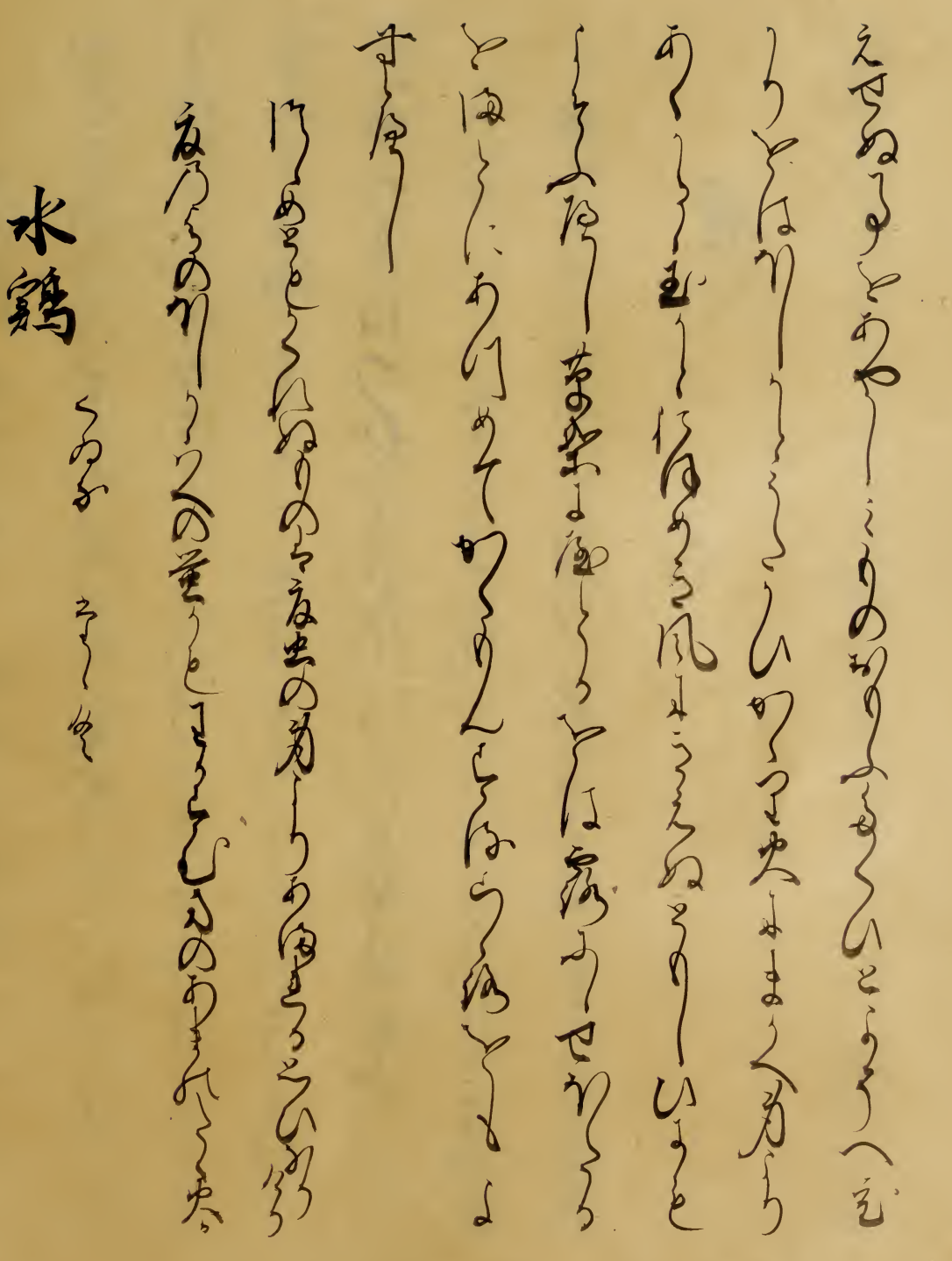
あきのとのてひく海けくよ多人しにうきとも日もく
まねいそこそまれしもこみてまろ乃くれしれふからむ

とはまゝらしきれくけなへかれくさもかし
かと

こゝやりなふさけうにかまりいそやさるへかいもこそ
しれ

照射

さりしいふやさけうやこのれうけとらゆくしや
いひくかうさ乃風くれうとのなれとうしう
こしてそれまましけとあさて火ととりして
さなれ山のかくとさつにさけゆけくさの火れ
りをくりとめつしくみくへのかりしもさ



薄

みけやかしくなりぬ

めしつかひぬることなく事に付めよこそめでたきことなく君にて

雁

こほり。　こゑする〇　雁の一つらき

なかきわかり　夜なかなる〇　つらし

ちかけて　ところよ　二三とつゞけたる

あまのとまりのまのをとはれあけてくるまかく

くもいはるかにたかき雲のかよひぢをへてきたれ

まちとりたりしもうらめしうものかなしけれは

えらむしき雲にたにかよひくるに雲のかよひ宜

とはかなくまつまたなりとなりひら様もかり

○といひてもをのかくしやうむなりしんと
おもひ御りくりほよりのかなりしくはなりめつき
けよいくはしゆるとさぬしんとおほめく
秋風よくはり金そや花なりしうまはけさとけてうらん

鹿

をしか　さとしか　とは　はまふ
三のうらく

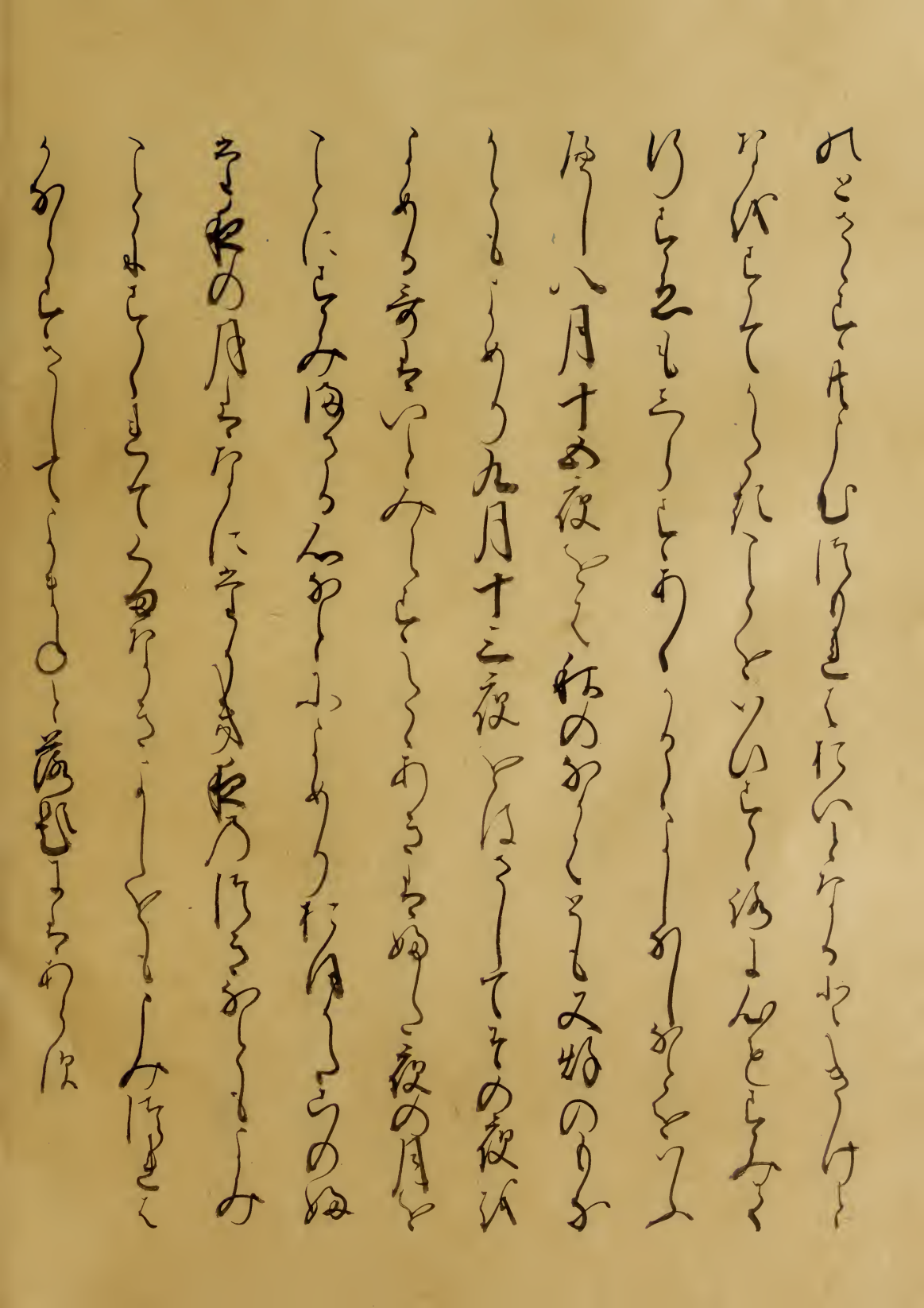
はまちかうしかの○よあやかくしそのうてとぬしし
くさの霧よさしかしむしの後しかしうをのへ
よなくしこ乃風よさそくしくはしひあはよ
さむまあしやまかうしくしいたらくのや

けしきはしくへし
行月の名にかゝれはあはれいとゝつよめの哥しかたし

駒迎

りう月の二首　ころもうつの二首
行平の駒　こまひき　ひめこつ二首
あふさの二首

ち首むくしくつふちをしにしに八月十六日よりまゐま
乃方より駒をたてまつるを殿上人乃むかへにゆくなむこの
ひくらきて色そらめく乃中へいて来るとこ
まひこしとこ首むしくしゝつかつめらはまき
つゝかしいつちみおつ人まさき乃えやとしゆら月



落葉

うれしき人にこゝろしられてしのひにあかなく

霞

あさ　なりひら

かはらのこ女

あましはけみのそらはしもわたつ海乃はらかすみし

いつれくしつまてこと神はいなきつるとんとく

こけてかこも春まとのまくさいろ人は又霜まかて

こゝひ海この花にひかしれなはしかなはしも

しめかつのいろ紫よそこはきこいへしは蔦の海

しきしとまいふ風し

こ山まて霞たなひしく山かつの海このうちなほこそはなれ

この歌は霧ふかくして侍るに小舟こそいめくまかならしかせは

雪

ふる雪　白雪　はつ雪　雪のあした

みよしの　山しらね　しのやま

あらち山　足ゆき

あさ之の雪は花にまかふ人夜のあけほのしもにほめ

く山はしらゆきにうつもれて白妙の峰を行人も

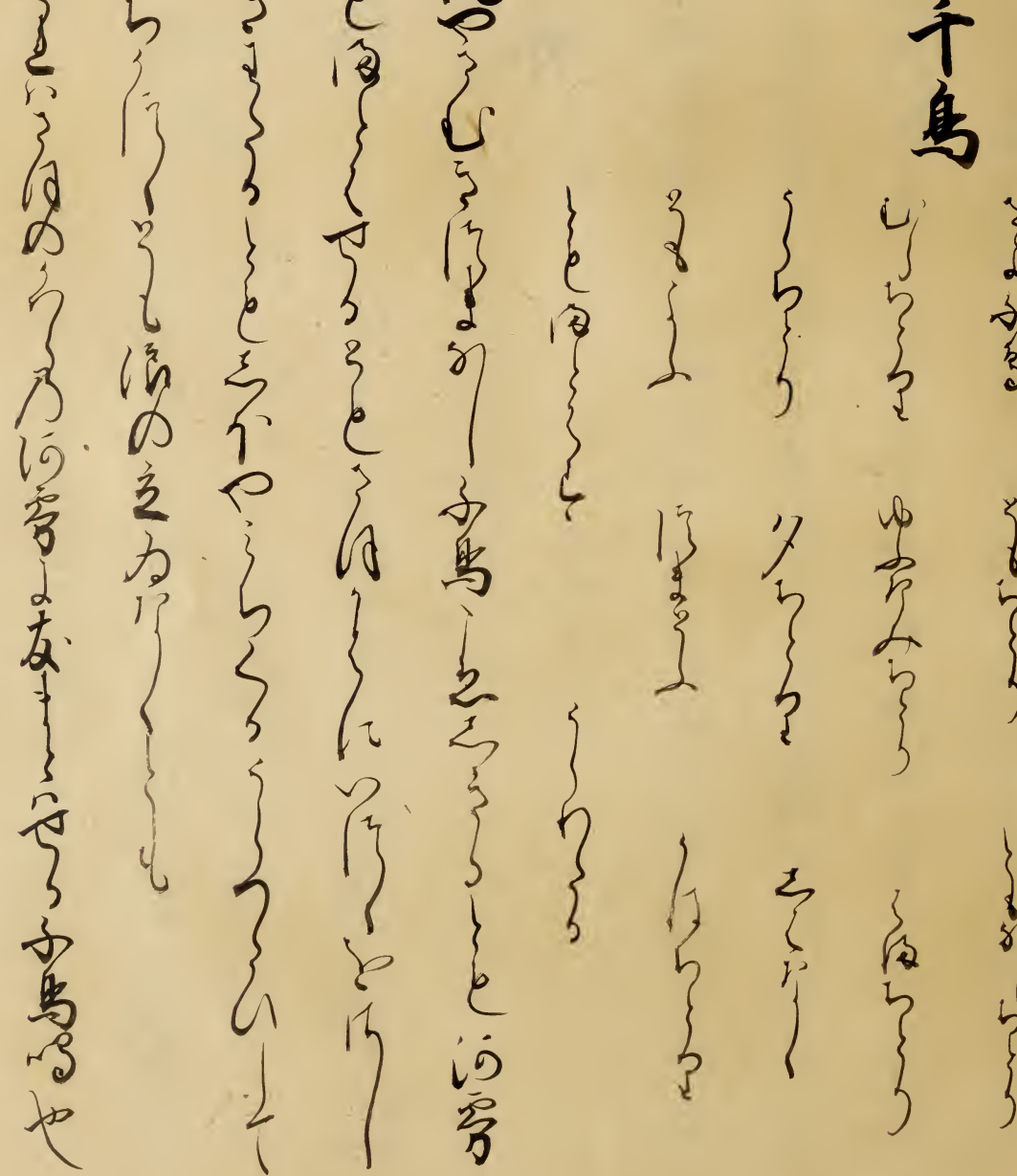
ありしゆきの行しらいろんはしと歳こあしけ

きまよふにも乃雪あまりけ人のあとふみわけ

雪のふるあさかしきのあれはやまのしまに

待るの行人雪の下かれはめぐりし松のこずえ

千鳥



くまとのかこふる○してはまとうひともとの

いはしのまくらとのくるを○てらし山め

夜とのしる○はらぬとしのなかれうみ

ちくやとしねたのいとあくれてかめのこの

こくめかれともくとかくめらやせふすくはのくさ

のをとのこむふんかしにせくし

し候こむ行ちそやかとしそるしひゆのたちかとく

ゐうれはしの桃ひまとかし山えこえくしとめもとこに

網代

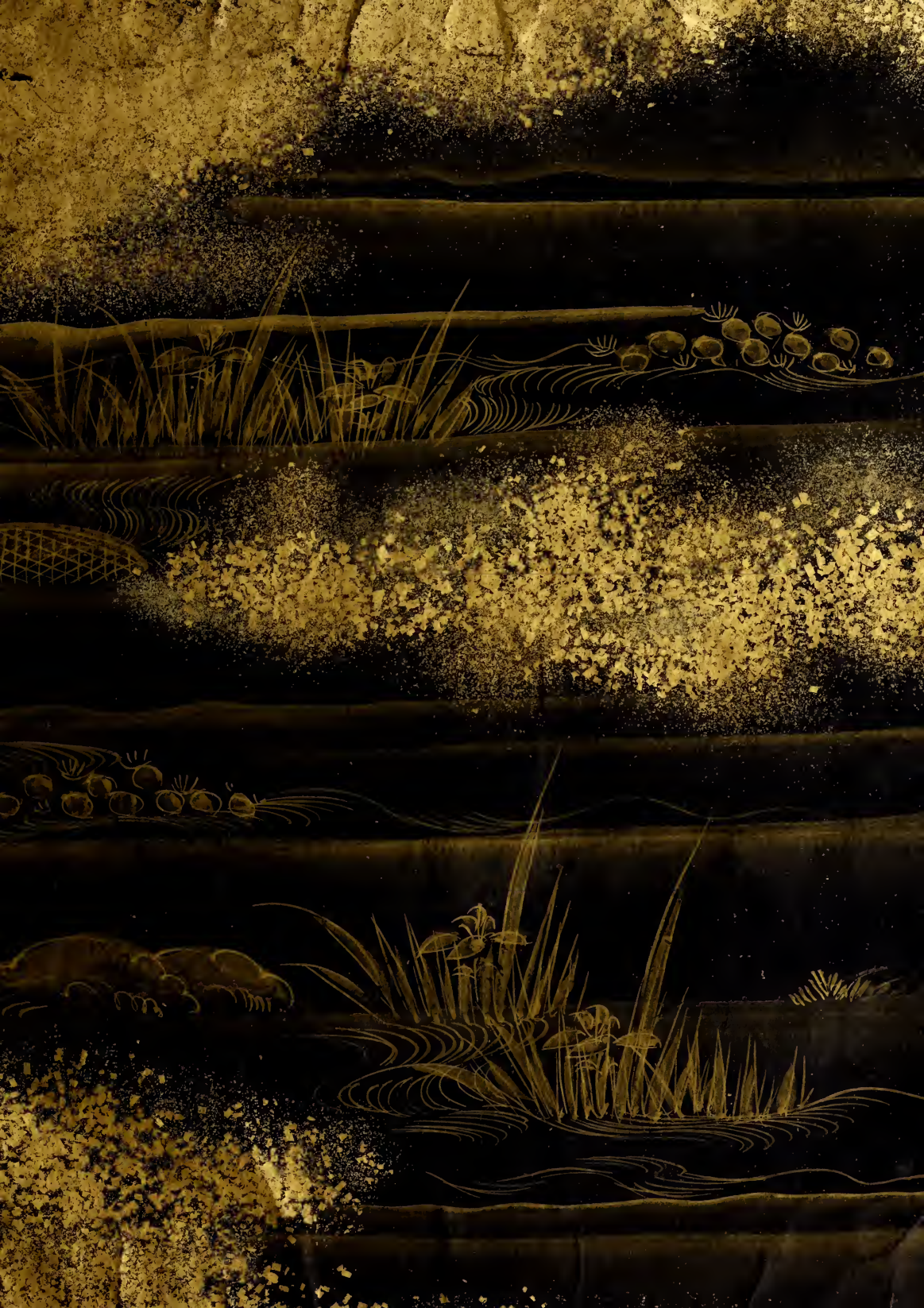
あしろ　はしらき　あしろのやこ

井くい　しらき　しらし　すかたに

しらぬ　しら乃

そらはしはそらかくさすとしらかしらさ草まくら
うきねのこりとうきのへとしらほうよらはく
やかはるしは山とそひくるやこ井しらそきの
木のえてまめくるのやとしかくとりふこぬかうゐ
しともいふとうらしはそうきのしらけ東からそうふ
とりかへかへらしつはるあはそきのえるしかうき
ゐくろそうきてたしうき人乃うきかほるぬる
なりそうのえりしたれやものれうとてかへり
草木も あらしきとてらくきしわすれしまくはゆる

あれとくさえそしのはしまよしみえくらさみゆめの
はるのたちけるかしもくらひ吉野の雲ゐまよく
けしらくし
足山本ともあまのかなかにうつほにてこもとさあかぬらしゆきに

狸火

行こ火もあつまりてくつくわらんともしい
こそしにこえぬいのちかとこえて見へ行
めれかしあらかれのゝしとしゐくし
かりくまこえいこしかそ狸火のへそ山けれ毎まあり